

山口県内の博物館紹介 vol.13

下関市烏山民俗資料館

今回ご紹介するのは、本年8月31日に閉館する下関市烏山民俗資料館です。現在は閉館展として『烏山コレクションのすべて』が開催されています。烏山民俗資料館の歴史は、昭和43年(1968)、地元の名士である重本光氏によって豊浦町涌田後地の烏山の麓に設立された私設資料館『烏山民俗館』にさかのぼります。若かりし日に「こけし」に興味を持った重本氏は独自に人形や家具などの収集を始め、その後は柳宗悦氏らによる「民芸運動」に共感し、全国各地の陶芸品や様々な民俗資料をコレクションに加えていきました。その貴重な収集品の公開を目的として設立された烏山民俗館は、昭和54年(1979)に川棚の地(現在の場所)に移設され、『烏山工藝館』として再出発します。平成8年(1996)には収蔵される貴重な資料の散逸を防ぐため、資料と建物が旧豊浦町に寄贈され『豊浦町(合併により現在は下関市)烏山民俗資料館』と改称されます。

そして現在でも郷土の人々に親しまれる文化施設として輝きを放ち続けているのです。この数奇の運命をたどった資料館の特徴について、学芸員の大西圭子さんに色々とお話をうかがいました。

(質問)閉館展では膨大な数の資料を公開されていますが、収蔵資料は何点ですか？

大西「2500種で約3万点を数えます。閉館展では、その内約8千点を展示しています」

(質問)展示品を見ますと、全国に散在している民俗資料館とはやや異なる資料展示ですね。大西「多くの民俗資料館では主に農具や漁具の民具を展示していますね。当館では元々が個人収集品ということもあって、玩具や民芸品など、楽しいものや美しいものが主体を占めています。もちろん農具なども所蔵しており、社会教育活動にも活用しています」

県内屈指の規模と内容を誇る現資料館とは、残念ながら今年の8月31日でお別れとなります。8月中は休館日(水曜日)以外は全日開館してます。まだ訪れたことがない方は是非1度足をお運びください！また、嬉しいお知らせもあります。現在川棚温泉湯町内に「湯町観光交流センター(仮称)」が建設中であり、来年夏以降に建物内に展示スペースが開設されるそうです。資料館の新たな歴史の始まりを楽しみに待ちたいと思います。(横山成己)



下関市烏山民俗資料館外観



館の説明をいただいた大西学芸員

お問い合わせ先
下関市烏山民俗資料館
〒759-6301
下関市豊浦町川棚 5281
Tel/Fax 083-772-1052



2008 年 春 埋蔵文化財資料館の活動

4月 4/1(火) 第25回企画展『ロマン発見～考古学者の罎～』オープン。
第8回大学情報機構埋蔵文化財特別展(於:山口大学総合図書館1階)『あしもの遺跡シリーズ5 中近世の吉田遺跡』オープン。

5月 5/14(水)・15(木)・26(月)・30(金)
吉田構内国際交流会館(吉田遺跡)にて立会調査を実施。
5/16(金) 山口県博物館協会総会に参加。
5/19(月)～5/27(火)
常盤構内学生寮(山口大学工学部構内遺跡)にて予備発掘調査を実施。
5/24(土) 第8回公開授業
『古代人の知恵に挑戦!～古代のお米をつくってみよう3～』
第1回授業(田植え)開催。受講者24名。

6月 6/5(木)・6(金)
大学博物館等協議会2008年大会・第3回博物科学会に参加。
6/20(金) 第25回企画展『ロマン発見～考古学者の罎～』終了。入館者総数220名。



第25回企画展の様様



第8回公開授業(田植え)の様様

編集・発行
山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
【Tel/Fax】083-933-5035
【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp
【HP】http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuam-w/Shiryoukan.home/

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信
第13号
『てらこや埋文』2008 夏

発行年月日 2008.8.12.

季刊 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第13号

Elementary Archaeological Report

てらこや埋文

2008年
夏



『山口大学』のスゴイもの

山口大学のイメージを探ろう

山口大学埋蔵文化財資料館では、昨年の夏から展示アンケートで下記の質問を行っています。

○山口大学にあるもの(学術資料・図書・建物・自然、何でも結構です)で、あなたが「これはスゴイ!」と思うものは何ですか？

このアンケート項目は、私たちが発掘を行い、その成果を公開し続けている「山口大学キャンパス内の遺跡」が学内外の方々にどのように評価されているかを調査すると同時に、「山口大学」のイメージを把握することを目的として設置しました。現在もアンケート調査を継続していますが、調査開始より1年が経ちましたので、中間発表をしておきましょう。

このアンケート項目に対する回答率は、残念ながらアンケート回収数の30%程度です。学外からのお客さんには回答し辛い質問だったのかも知れません。実数としては55名の方に回答いただきました。回答を記入して下さった方々、ご協力有り難うございました。

やはり「自然」が強い

調査結果のランキングは以下の通りです。

- 1位: 自然 (12票)
- 2位: 遺跡 (8票)
- 3位: ネコや鯉などの動物 (7票)
- 4位: 図書および図書館 (6票)
- 5位: 土地の広さ (5票)
- 6位: 桜などの樹木 (4票)
- 7位: 学術資料・建物 (各3票)
- 9位: 埋蔵文化財資料館・水田 (各2票)
- 11位: SCS教室・噴水・教員や学生などの人材 (各1票)



山口大学吉田キャンパス

当館としては非常に励みになる結果が得られています。埋蔵文化財資料館でのアンケート調査であることを差し引いても、「山口大学＝遺跡」という認識が根付きつつあるように感じられます。今後とも、この特色を最大限に活用する取り組みを継続したいと考えています。

それにしても「自然」に関連する回答の多さには驚かされました。アンケートに記入いただいたのは主に本学の教職員と学生ですので、私たちの職場環境や研究環境がいかに関心されているか、ということなのでしょう。これは喜ばしいことなのでしょうが、一抹の寂しさが残りますね。このアンケートを取りまとめていて、「教員や学生などの人材」という文字を読んだ瞬間は…アンケートの文字が滲みました。大学はやはり「人」がブランドであることが理想なのではないでしょうか。人材を誇れる大学でいたいですね。そのような思いを強くさせてくれたアンケート結果に感謝しています。

現在も、展示室ではアンケート調査を継続しています。当館の展示をご覧いただいた後は、是非アンケート調査にご協力下さい。あなたの一筆が当館の活動、ひいては山口大学の将来像を描くことになるかも知れません。

(横山成己)

現在開催中の展示



山口大学埋蔵文化財資料館 第26回企画展

ロマン発見 ～考古学者の罎～

開催場所: 埋蔵文化財資料館 展示室
開催期間: 平成20年7月14日(月)～10月10日(金)
開館時間: 午前9時～午後5時
休館日: 土・日曜日、祝祭日、8月13日～8月15日
※休館日に入館ご希望の方は、事前にご連絡ください
(団体のお客様に限ります)

入館料: 無料



資料館この一品 vol. 12

弥生時代のゴミ捨て穴

これまでの埋蔵文化財資料館による発掘調査で、事務局2号館から大学会館、第二学生食堂付近一帯の低い丘陵は弥生時代以降の生活の場であったことが判明しています。昭和54年（1979）に行われた事務局2号館敷地の発掘調査では室町時代～江戸時代の屋敷跡などがみつっていますが、調査区の南西部では弥生時代の土壌が南西－北東方向に3基並んで見つかりました。今回はこれら3基の土壌のうち、最も良好な状態でみつかった南西側の土壌（第1号土壌）と出土した弥生土器についてご紹介します。

この土壌は東西幅が1.74m、南北幅が1.67m、深さが約0.5mの規模で、土壌の中からは、弥生時代後期後半の土器や石器、鉄器などが多量にみつかりました。最も多かったのが弥生土器で、これらはすべてバラバラの状態で土壌の中央から北西よりに集中しています。この状況からこの土壌は比較的短期間のうちに、壊れたものや不要品などを投げ捨てたゴミ捨て穴と考えられます。本来は木製品など、有機質のものもあった可能性がありますが、長い年月の間に腐ってしまい、土器・石器・鉄器など腐らないか、腐りにくいもののみが残されたのでしょう。

出土した弥生土器は弥生時代後期後半に位置づけられるものです。特に壺形土器は口の部分が二重になった「複合口縁壺」と呼ばれる土器で、似たような形をした壺が福岡県・大分県・愛媛県・広島県で分布していることが知られており、当時の文化圏を知る上で貴重な資料となっています。

（田畑直彦）



事務局2号館敷地第1号土壌 遺物出土状況（南西から）



同遺物出土状況拡大（南西から）



事務局2号館敷地第1号土壌出土の弥生土器 壺



土器工房まいぶん vol. 1

粘土を低温で焼いてつくられた古代の食器や調理具を、私たちは「土器」と呼んでいます。遺跡の発掘調査で一番多く出土するのが、この「土器」と呼ばれる古代人の道具です。つまり、土器は古代の人々の「生活必需品」だったのです。それでは、土器はどのような方法でつくられていたのでしょうか？ このコーナーでは弥生時代の土器づくりの方法を紹介していきます。

弥生土器のつくりかた その1

用意する材料と道具



焼成時に割れにくくするため粘土に砂を混ぜ良く練ります。

①土器の底をつくる



粘土を叩き締めます。

②粘土の紐をつくり、帯状に広げる



③粘土の帯を積み上げる



一段ずつ積み上げます。

④形を整える



粘土同士を密着させ、板などで形を整えます。

⑤口縁をつくる



口の部分を折り曲げ全体の形を整えます。

⑥文様をつける



竹管などで文様をつけます。良く乾燥させて完成です。

（乃美友香）



喫茶まいぶん Vol. 5

このコーナーでは、山口県内の手軽に行ける遺跡を紹介します。今回は、宇部市にある縄文時代の遺跡です。1956年以降4回の発掘調査が行われたこの遺跡の一角には、輝かしい調査成果を記念する石碑が建てられています。

つきさき

月崎遺跡

月崎遺跡は県内で数少ない縄文時代の集落遺跡の一つで、海辺で営まれていたところに特徴があります。その特徴に符合するように出土した遺物には石製の錘（おもり）が多く、縄文人が網を使った漁を頻繁に行っていたことがわかります。もう一つの大きな特徴は、石製の鍬（やじり）の材料として姫島（大分県にある島）産の黒曜石（こくようせき）が多く使われていることで、他地域と交流を活発に行っていたことを示しています。



月崎遺跡付近の地図



月崎遺跡



遺跡の前面に広がる遠浅の海岸

月崎遺跡は岐波（きわ）駅（JR 宇部線）から徒歩で10分程の距離です。ここには遺跡を復元した施設などはありませんが、縄文時代当時の景観を保っていると考えられ足を運ぶ価値は十分にあります。遠浅の海岸で海水浴や潮干狩りを楽みつつ、貝や魚を捕っていた縄文人達の営みに耳を傾けてみるものおもしろいのではないのでしょうか。

（藤野好博）